

地場産業再生 MOT フォーラム

第8回目となる地場産業再生MOTフォーラムを2018年2月に、滋賀県のシンボル琵琶湖をのぞむホテルで開催した。このフォーラムは、新商品開発への挑戦事例や、MOT(技術経営)をベースにした取り組み事例を紹介し、活発な質疑応答を通じて地場産業再生人材の育成をねらいとしたものである。

フォーラムの第一部では、商品開発の手法の紹介を主題として特別講演を企画しており、今回は、金沢工業大学感動デザイン工学研究所長の神宮英夫教授に、「“感動”をデザインするものづくり」と題して特別講演いただいた。どのようにして心の動きを測り、心の動きをもたらす品質へどのようにして関連付けするかの説明に加えて、意識できない「なんとなく」の心の動きを測る生理・脳機能測定に関して説明いただいた。さらに心理学がものづくりに役立つ、商品開発事例の紹介があった。活発な質疑応答が続き、感動デザインへの関心の高さを感じた。

第二部では、地場産業の活性化に第一線で取り組まれている方々から、新事業、新商品開発の挑戦事例を報告いただいた。本学経済学部准教授の柴田淳郎氏からは日本独特のスピノフ形態から生まれた新事業の報告を行った。Nae-ark社 代表の建築家ミロタ・クリストフ氏とデザイナー小西菜月氏より、建築を主にして欧州と日本のデザイン比較論が紹介された。京都府立陶工高等技術専門校校長の大西学氏から伝統産業における世代育成事例や提案施策の説明があった。本学社会連携研究センター客員教授若林忠彦氏からは、近江商人の系譜をたどりながら、長期的な視点から生まれた新事業の事例の紹介があった。約60名の参加者の方々の真剣な聴講、活発な質疑応答が行われ、充実したフォーラムとなった。



神宮英夫 氏



会場風景



柴田淳郎 氏


 ミロタ・クリストフ 氏
& 小西菜月 氏


大西 学 氏



若林忠彦 氏

2017年度 滋賀大学 MOT プログラム



第8回

地場産業再生 MOTフォーラム

「感動をデザインするものづくり」と題して、金沢工業大学感動デザイン研究所所長 神宮英夫氏の特別講演を行います。また、地場産業の活性化をめざした新商品開発への挑戦事例や、MOT（技術経営）をベースにした取り組み事例を紹介します。

日時 | 2018年 **2月23日** **金**
13:00~17:00 開場 12:30

会場 | **びわ湖大津プリンスホテル 伊吹 (2F)**
〒520-8520 滋賀県大津市におの浜4-7-7 (JR大津駅から無料シャトルバスで10分)

定員 | **70名** 参加料 | **無料 (先着順)**

プログラム I

司会：滋賀大学社会連携研究センター 客員教授 山本 卓

- 13:00~ **開会の挨拶** 滋賀大学 社会連携研究センター長 **神部 純一**
- 13:10~ **特別講演「“感動”をデザインするものづくり** 金沢工業大学 副学長(研究支援担当) **神宮 英夫**
感動デザイン工学研究所 所長
情報フロンティア学部心理情報学科 教授
- 14:40~ (コーヒーブレイク)

プログラム II

司会：滋賀大学社会連携研究センター 客員教授 若林 忠彦

- 15:00~ **一般講演**
- 講演「**新事業創出とスピンオフ**」 滋賀大学 経済学部 准教授 **柴田 淳郎**
- 講演「**ヨーロッパから見た日本のデザイン**」 nae-ark 代表 建築家 **ミロタ クリストフ**
デザイナー **小西 菜月**
- 講演「**伝統産業の若い世代を育てる**」 京都府立陶工高等技術専門校 校長 **大西 学**
- 講演「**長寿企業に見る事業創出とその展開**」 滋賀大学 社会連携研究センター 客員教授 **若林 忠彦**
- 17:00 **閉会**

主催：滋賀大学社会連携研究センター 共催：(公財) 陵水学術後援会
後援：滋賀県、(公財) 滋賀県産業支援プラザ、滋賀県中小企業団体中央会、(一社) 滋賀経済産業協会、近江八幡商工会議所、彦根商工会議所、長浜商工会議所

お申込みは mail、TEL、FAX(裏面)のいずれかでどうぞ。

(文責 客員教授 山本 卓)